阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室ニュース

Vol.32
2007年3月27日
●発行●

特集「阪神・淡路大震災時の災害医療」

今回は、阪神・淡路大震災時の災害医療について取り上げます。震災当時の医療機関や医療従事者の状況をお伝えし、震災の教訓をもとに始められた取り組みをお伝えするとともに、当センター所蔵の関連資料を紹介します。

震災直後の医療従事者と被災者の状況

阪神・淡路大震災が発生した1月17日正午に警察庁などが発表した被害者数は、死者数203人、行方不明者数331人、けが人711人でしたが、その数字は日ごとに激増していきました。18日正午には死者数、行方不明者数を合わせて2,800人になり、19日には死者数が3,000人を超え、20日には死者数が4,000人を超えました。そして、地震発生1週間後には死者数5,000人を超える大惨事となりました。

この間、被災地であった10市10町（当時）はもとより、その近隣の医療機関は大混乱を極めました。被災地では、診療機器が壊れ、薬剤が散乱した医療機関が多くありました。また、水や電気が供給されないために診療不能になった病院や、医師や看護師などの医療従事者たちが出勤できない状況の病院も多くありました。神戸市では医療機関全体の全壊（全焼）・半壊（半焼）率が40.3%でした。そんな中で、震災から1週間で診察した患者数は病院で5万人、診療所で10万3,000人を超えました。

兵庫県災害医療実態調査によると、震災当日の医療従事者の出勤状況は、病院では医師58.4%、看護師44.2%でした。医師と看護師を含めた、震災当日の医療従事者の出勤状況は下の表のようになっています。表から震災当日の医療従事者不足がうかがえます。

写真は兵庫県広報課撮影

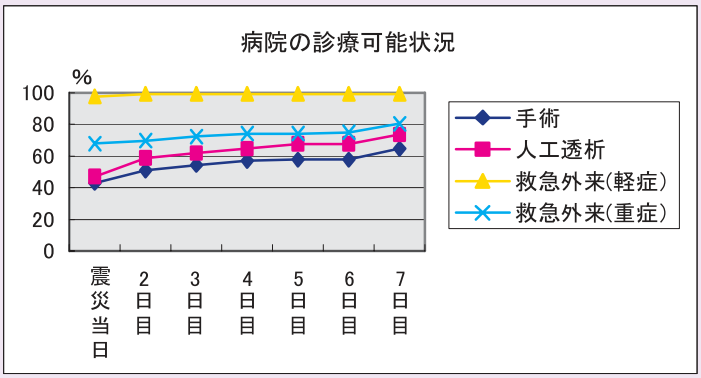
病院職員の震災当日の出勤状況

	出勤者数(人)	常勤者数(人)	出勤比率	回答病院数(件)
医師	1,810	3,098	58.4%	172
歯科医師	29	83	34.9%	13
看護師	5,987	13,551	44.2%	163
薬剤師	474	918	51.6%	141
診療放射線技師	483	728	66.3%	120
その他コメディカル	1,754	2,524	69.5%	139
事務職員等	2,435	7,849	31.0%	164

※「常勤者数」は、震災当日に勤務すべきだった人数とは限りません。
出典：阪神・淡路大震災復興本部 保健環境部医務課（1995年6月）
『災害医療についての実態調査結果』

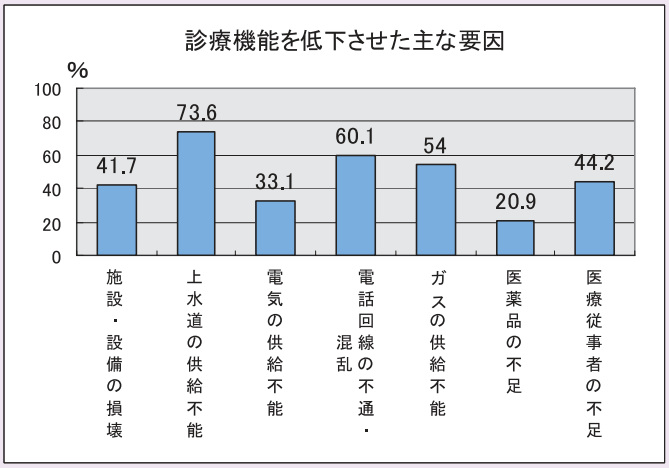
震災直後の医療機関の状況

震災当日に対応できた診療部門は、「手術」が43.1％（回答病院数116件中）、「救急外来（軽症）」が97.5％（回答病院数120件中）、「救急外来（重症）」が67.9％（回答病院数112件中）、「人工透析」が47.1％（回答病院数34件中）でした。震災当日から比較的高い確率で対応できているように見受けられますが、「手術」や「人工透析」は水などのライフラインの途絶により対応が遅れたと考えられます。震災後7日目では、「救急外来（軽症）」は99.2％、「救急外来（重症）」は80.4％の病院が対応できるようになったにもかかわらず、「手術」と「人工透析」の対応率は、それぞれ64.7％と73.5％であり、他に比べて低い水準のままでとどまっています。



出典：阪神・淡路大震災復興本部 保健環境部医務課（1995年6月）
『災害医療についての実態調査結果』より一部改変

写真は兵庫県広報課撮影



出典：阪神・淡路大震災復興本部 保健環境部医務課（1995年6月）
『災害医療についての実態調査結果』

この結果は、病院の診療機能を低下させた要因の調査結果からも確認できます。診療機能を低下させた1番大きな原因は「上水道の供給不能」で、73.6％（回答病院数163件中）の病院が挙げています。また、50％を超える病院が「電話回線の不通・混乱」と「ガスの供給不能」を挙げており、ライフラインの断絶により被災者に対する診療活動が妨げられた様子がわかります。

■引用文献

●震災復興調査研究委員会編、(財)21世紀ひょうご創造協会発行(1997)『阪神・淡路大震災復興誌第1巻』p351－357
●社団法人 兵庫県医師会発行(1996) 『震災と医療 阪神・淡路大震災の記録』

所蔵資料から見る震災時の災害医療

当センターには当時の災害医療をお伝えする資料が収蔵されています。その中から１点の資料をご紹介します。

緊急歯科医療の横断幕

写真の資料は、被災地でボランティア活動をするために自家用車の前の部分に貼った横断幕です。資料寄贈者の元村さんは歯科医師で、震災当時、口腔外科の専門を含む垂水区歯科医師会の有志6人とともにボランティア活動をされました。

元村さんは、ボランティア活動の為に1月19日から垂水警察へ通行証を申請するなどし、1月21日から実際の活動を開始しました。被災地では、入れ歯をなくしてしまい、昔の物しかないので使えるように高さをあわせてほしいという人や、長田付近では火災時の熱い煙を吸って口の中を焼いてしまった人などが多くいたそうです。いつもとは違うごくわずかな水と、器具のそろわない治療は大変だったが、とにかく自分のできる事をできる所までしようと思ったそうです。　（提供：元村太一郎氏）

震災後の災害救急医療システムの整備状況

震災を機に、災害救急医療に関するシステムの整備が始まりました。その一部をご紹介します。

兵庫県災害救援専門ボランティア（ひょうご･フェニックス救援隊HEART-PHOENIX）の発足

兵庫県は、震災1年目の1996年1月17日に災害救援専門ボランティアを発足させました。登録分野には、被災者の救援・救助活動などにあたる「救急・救助ボランティア」、医療支援の専門性を持つ「医療ボランティア」、避難所などで要介護者の対応をする「介護ボランティア」、避難所などで聴覚障害者の通訳をする「手話通訳ボランティア」、建物の倒壊や外壁などの落下の危険度を判定する「建物判定ボランティア」、専門ボランティアたちを搬送したり、資材や義援物資の輸送をする「輸送ボランティア」などがあります。

災害拠点病院と災害医療コーディネーターの指定

震災以降、災害救急医療システム整備の一環として、県内に災害拠点病院（現在15施設）が指定されました。そして1997年4月には、それらの病院に災害医療コーディネーターが置かれました。災害医療コーディネーターは、各患者の治療優先度（緊急治療か、待機治療か、救護所治療か）を判定したり、他病院への搬送を指示したりという、患者の症状による選別（トリアージ）を行います。また、患者の受け入れを決定する役割も担います。

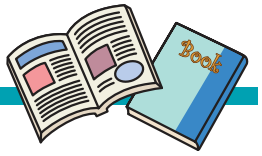
兵庫県災害医療センターの設立

2003年8月、災害救急医療システムの中核拠点となる兵庫県災害医療センター（所在地：HAT神戸）が開設されました。全国の自治体で初の本格的な災害医療施設です。平常時には、患者の搬送にヘリコプターや医師が救急車に同乗するドクターカーを用いるなどして、高度救命救急センターとしての役割を果たしています。また、災害時には、県下各病院の被災状況や患者数などの情報を集約し、転院先や救護班の派遣を調整する役目を担います。

■引用文献

●震災復興誌編集委員会編、（財）阪神・淡路大震災記念協会発行（1999）『阪神・淡路大震災復興誌第3巻』p301－317
●震災復興誌編集委員会編、（財）阪神・淡路大震災記念協会発行（2005）『阪神・淡路大震災復興誌第9巻』p448－453

関連図書の紹介



震災時の災害医療に関する図書です。資料室に所蔵していますので、関心をもたれた方はぜひお越しください。

題　　名	著者・記事作成者	発信者・発行者
21世紀の災害医療体制；災害にそなえる医療のあり方	厚生省健康政策局指導課（監修）	（株）へるす出版
平成7年度厚生科学研究費補助金(健康政策調査研究事業)「阪神・淡路大震災を契機とした災害医療体制のあり方に関する研究会」研究報告書		平成7年度厚生科学研究費補助金(健康政策調査研究事業)「阪神・淡路大震災を契機とした災害医療体制のあり方に関する研究会」
阪神大震災と災害医療	徐昌教	神戸朝日病院
災害医療ガイドブック	坪井栄孝・大塚敏文（監修） 国際災害研究会（編）	（株）医学書院
大震災と歯科医療　阪神・淡路大震災からの報告と提言		兵庫県歯科医師会
災害医療　阪神・淡路大震災の記録 −被災地の命はどう守られたか−	薬業時報社大阪支局編集部（編）	（株）薬業時報社
災害医療における薬剤師の役割 −阪神・淡路大震災の記録−	社団法人　日本薬剤師会（編）	（株）薬事日報社
集団災害医療マニュアル　阪神・淡路大震災に学ぶ新しい集団災害への対応	吉岡敏治（編著代表）	（株）へるす出版
日本集団災害医療研究会誌　Vol.1　No.1	日本集団災害医療研究会誌（編）	日本集団災害医療研究会
平成17年度　災害医療に関するワークショップ報告書～災害医療ネットワークの構築に向けて～		神戸市・兵庫県神戸県民局

レポート

第7回阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会が開催されました

阪神・淡路大震災資料の保存・活用に関する研究会（第7回）が平成19年2月27日（火）に人と防災未来センターにて開催されました。（主催：神戸大学文学部地域連携センター）当日は、神戸学院大学の水本浩典教授と、神戸市長田区の震災・まちのアーカイブの季村範江さんと人と防災未来センター資料室から報告が行われ、その後約20名の参加者の間で意見交換がされました。内容は、震災資料に関するそれぞれの機関での現状や、震災資料の公開、また地域の中での取り組みなど幅広く話し合われました。震災資料についての情報の共有ができた貴重な機会となりました。

資料室からのお知らせ

『阪神・淡路大震災復興誌』について

当資料室では、『阪神・淡路大震災復興誌』1～10巻を閲覧していただけます。震災直後の被害状況から、復興過程を詳細にまとめた資料です。研究・発表などの資料として、是非ご覧下さい。

（財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター　資料室（防災未来館2F）

〒651−0073　兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1−5−2
TEL.078−262−5058　FAX.078−262−5062
HPアドレス　http://www.dri.ne.jp

資料室は無料でお入りいただけます。

〈開室時間〉　9：30～17：30（7～9月は18：00）
〈閉 室 日〉　毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）・12月29日から1月3日